

1.「さくら名所100選の碑」

平成2年3月3日、神峰公園と平和通りのサクラが全国桜名所百選に選ばれた。公園内には約1,000本、22種類の桜が植えられている。園内南駐車場北側には、日立の桜開花宣言の基になる「桜開花標準木」がある。

2.「根本甲子男顕彰碑」

戦災により消滅の危機にあった日立風流物の復元に尽力され、国の重要民俗文化財に指定される基礎を築いた。

5億年前の変成花崗岩自然石に「郷土芸能の保護、日立風流物の伝承に生涯を掛けた日立市名誉市民根本甲子男翁に感謝する」の銘板と風流物4台の公開状況を示すレリーフ「ユネスコ無形文化遺産日立風流物」がはめ込まれた顕彰碑。

傍らに副碑「天覧 日立風流物」と日立市名誉市民「根本 甲子男翁略歴」の碑が建っている。

3.「天道塚」碑

古くからこの地は天道山と呼ばれて、農耕が始まる陽春の一日を太陽(てんとう)の恵みに感謝し、冬の間に弱まった太陽の力を復活させ、五穀豊穣を祈願する天道念佛が日の出から日没まで行われた行事の碑。

4.「日輪尊念佛供養の碑」

太陽崇拜と祈願の証として宝暦12(1762)年に建てられたもの。

5.「小松崎爽青句碑」

海の見える、神峰公園のサクラを詠んだ句「鹿島灘 とよもす朝の 桜かな」の碑を平成7年11月23日に、かびれ社同人一同が建立した。

小松崎爽青は、大竹孤悠の後継者として「かびれ」主宰し、現代俳壇の重鎮として活躍。本名武男(1915~2003年、88歳没)岩間町生まれ、日立市高鈴町在住の俳人で、諏訪梅林と御岩神社にも爽青の句碑が建っている。

6.「大竹孤悠句碑」

「爽籟に 寂光雲を 流れたり」昭和41年4月3日に門人一同が孤悠の句碑を建立した。この句は、孤悠が神峰公園として整備される前に山麓の大雄院に参拝している頃、山頂にて詠んだ代表句。このような背景により、公園頂上付近に石碑が建てられた。

孤悠は、1896年(明治29)山形県米沢出身、1918年(大正7)日立市に移り住む。1931年(昭和6)3月俳句誌「かびれ」を創刊、1943年(昭和18年)日立製作所日立工場の大西工場長の依頼で工場の俳句講師となり、1979年(昭和56)没、享年84歳。

1981年(昭和56)4月御岩神社に「かびれ」創刊50周年を記念して句碑が建立された。

7.「バルカンの像」

鉱業から発展し、製鉄つながりでUSA・アラバマ州バーミングハム市と昭和57年4月23日姉妹都市となる。友情の証として昭和60年4月に日立市はバーミングハム市に石灯籠を、同年10月バーミング

ハム市から日立市に市のシンボルであるバルカン像が贈られてきた。バルカンとは、ローマ神話の火と鍛冶の神ウルカヌスのことです。

8. 「茨城百景・神峰ハイキングコースと大煙突」碑

県登録番号 72 茨城県知事友末 洋治書 昭和 25 年 5 月選定 形状は柱状。

9. 「日立市・十王町合併記念」碑

新しい日立市、合併した 2004 年(平成 16 年)11 月 1 日に建立。昨年、2024 年(令和 6 年)11 月 1 日合併 20 周年記念式典が執り行われた。

10. 「大煙突記念碑」

1914 年(大正 3 年)12 月 20 日、煙害対策として当時世界一の高さ 155.7m を誇る大煙突が完成、翌年 3 月 1 日に通煙開始。これを契機に煙害は激減、また荒廃した山々の自然回復のため大島桜など 1 千万本を超える苗木が植林された。「桜のまち日立」の原点。

平成 5 年 2 月 19 日午前 9 時 3 分地上 57m を残して上部崩壊。翌年 2 月 19 日大煙突崩壊 1 周年の日に大煙突建設の意義と功績を後世に伝える記念碑を建立。碑の表面には大煙突を描いた銅板のレリーフが嵌め込まれ、裏面に記念碑建設委員会による建設趣旨が刻まれている。

映画「ある町の高い煙突」の完成記念に平成 31 年 3 月 31 日「大煙突」案内板が設置された。

11. 「ある町の高い煙突」文学碑

平成元年 11 月 11 日、日立市制 50 周年を記念して新田次郎の「ある町の高い煙突」の文学碑が建立された。公園頂上付近では、大煙突が良く眺められる一角に

“「ある町の高い煙突 新田次郎 第 28 回 誕生と死」

三郎は祈るような気持ちで大煙突を見上げていた。高い、高い煙突の上には青空があった。いつまでも煙突を見上げていると、目まいがしそうだった。”

12. 「神峰公園最大の露頭(大岩)」

5 億年前カンブリア紀の变成花崗岩で神峰公園最大の露頭(大岩)。公園内の露頭は、すべて 5 億年前の花崗岩露頭。

13. 「還暦祝い記念植樹」碑

平成 2 年 11 月、豊浦一八会一同により還暦祝いに染井吉野 100 本の植樹記念の碑。

14. 「神峰神社裏参道碑」

動物園方面から神社に向かう際に裏参道に至る、第 3 の鳥居、竹林の雰囲気が良い。
昭和 47 年 8 月、中屋助膳、篠原辰次奉納

15. 「神峰神社拝殿造営記念」

16. 「久原房之助・小平浪平頌徳碑」

日立市発展の基礎を築いた日立鉱山創業者久原房之助翁と日立製作所創業者小平浪平翁の徳

を永く検証するために建てられた $4.95 \times 1.65 \times 0.36m$ の黒色粘板岩の碑。石碑の基礎石が 5 億年前の变成花崗岩。揮毫は徳富蘇峰翁、碑文の日付は昭和 15 年 8 月だが、除幕式は昭和 17 年 11 月、新庁舎落成式と同日に行われた。

石碑の周りは円形の敷石があるが、この直径は大煙突の立ち上がり部分の内径で 10.8m ある。また日立駅中央口の桜樹を囲む円形のベンチは、大煙突の上部先端部で内径 7.8m ある。

17.「神峰公園」碑

神峰公園入口(神峰神社側)にある案内石碑。

宮田川の石。昭和 32 年 3. 20 建立。揮毫は当時の市長高島秀吉

18.「日立市の郷土博物館」

1975 年(昭和 50)に県内初の市町村立博物館として、旧日立役場跡に建設開館した。

・太古のひたち 郷土博物館の屋外に、5 億年前から 500 万年前までの岩石展示があります。日立でしか見られないカンブリア紀の岩石 9 種類をはじめ、全体で 25 種の岩石が展示されている。

・ブロンズ像「エーゲ海に捧ぐ」 木内 克(きのうち よし) 1972 年作

水戸市出身の彫刻家(1892. 6.27 ~ 1977. 3.8)。

1975 年(昭和 50)2 月 14 日 オパール婦人会(更生保護女性連盟)の発足 20 周年記念として寄贈さる。

・戦後 80 周年記念ギャラリー展「昭和の戦争」

以上